

# 2017年(平成29年)3月期 第2四半期 決算説明会

長瀬産業株式会社  
2016年11月25日

Copyright © 2016 NAGASE & CO., LTD.

## 目次

■ 2017年3月期第2四半期 決算概況	P. 3
■ 2017年3月期 通期業績見通し	P. 13
■ 中期経営計画「 <b>ACE-2020</b> 」の進捗	P. 19
■ ナガセケムテックス株式会社の取組みについて	P. 21
■ (参考資料)セグメント別概況	P. 35

## 2017年3月期第2四半期 決算概況

### 連結損益計算書

- 売上高：円高およびナフサ価格下落等の影響を受け、全体で減収
- 営業利益：退職給付会計における数理計算上の差異15億円を費用計上(前年同期比▲20億円)したこと等により、減益

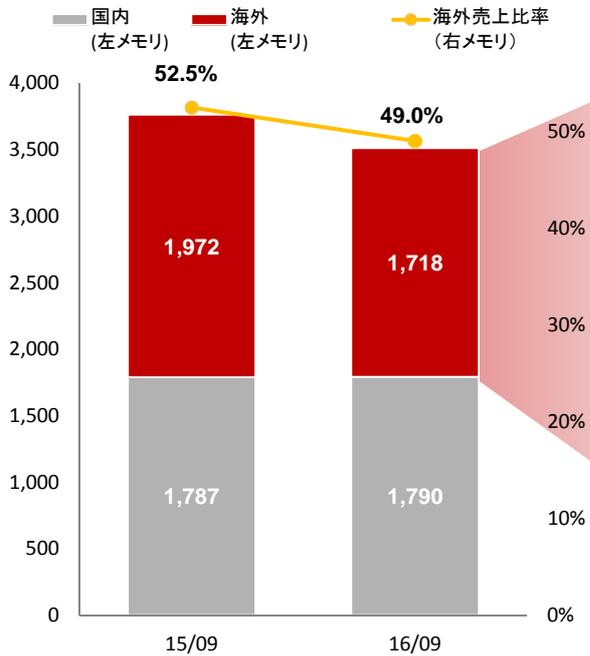
(単位:億円)

	15/09	16/09	増減額	前年同期比	公表見通し (通期)
売上高	3,760	3,508	△251	93%	7,350
売上総利益	464	446	△17	96%	923
<利益率>	12.3%	12.7%	-	+0.4%	12.6%
販売費及び 一般管理費	△363	△374	△10	103%	△778
営業利益	100	72	△27	72%	145
経常利益	101	74	△27	73%	160
親会社株主に帰属する 四半期純利益	65	46	△18	72%	95
US\$レート (期中平均)	@121.8	@105.3	@16.5円高		@108

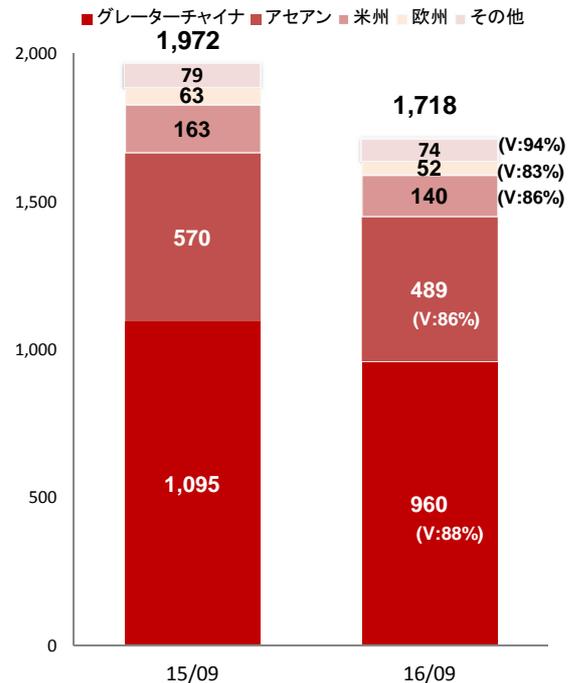
【為替変動による16/09期 売上高および営業利益への影響額(前年同期比較)】  
 売上高:約△322億円 営業利益:約△13億円

## ■主に円高の影響により、海外の全地域において減収

### 国内・海外売上高(億円、%)



### 海外売上高の地域別内訳(億円、%)

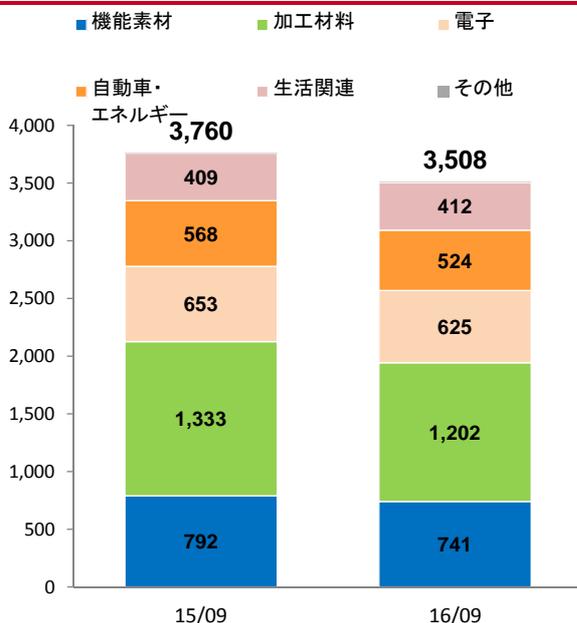


※V: 前年同期比

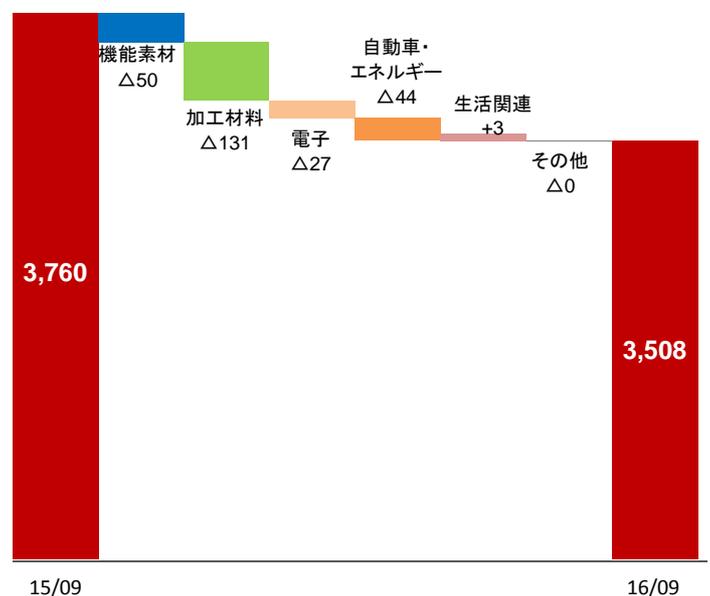
# セグメント別売上高2期比較

- 機能素材: 電子業界向けフッ素ケミカル等の売上は増加したものの、ナフサ価格下落、国内市場の減少等の影響を受け、塗料・ウレタン原料の売上が減少したこと等により、減収
- 加工材料: 国内での包装材料用の樹脂やアセアン等における樹脂販売は好調に推移したものの、円高の影響により減収
- 生活関連: 林原関連の売上は微減となったものの、医薬・医療業界向け原薬・中間体・医療材料等の売上が増加し、横ばい

### セグメント別 売上高(億円)



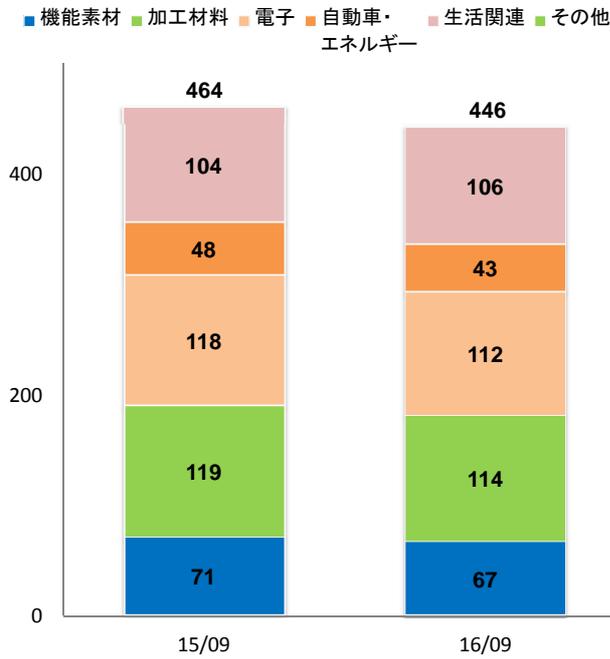
### セグメント別 売上高増減(億円)



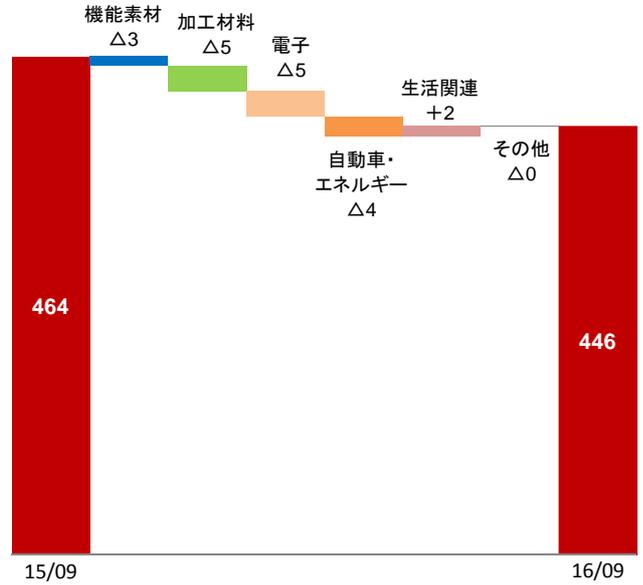
# セグメント別売上総利益2期比較

■一部製造子会社において損益改善がなされ利益率は改善したものの、減収の影響を受け減益

### セグメント別 売上総利益(億円)



### セグメント別 売上総利益増減(億円)

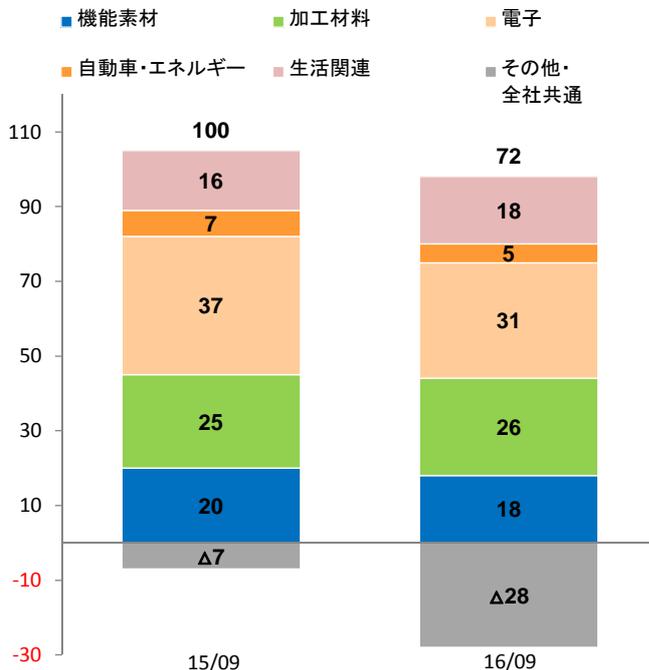


# セグメント別営業利益2期比較

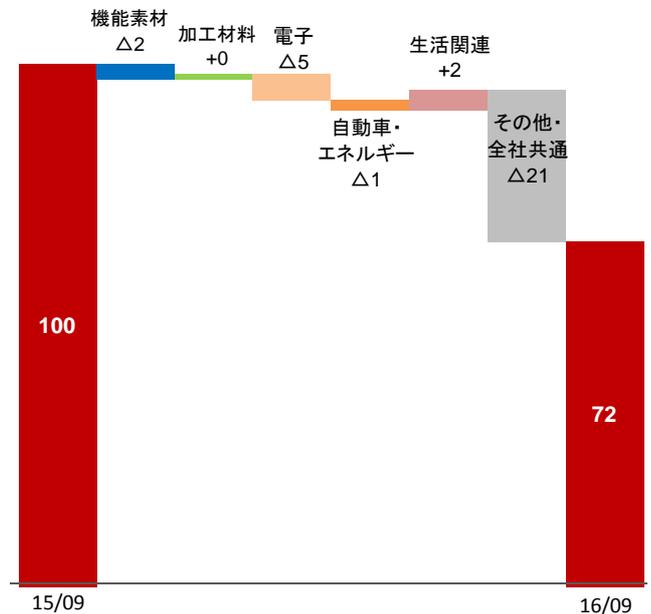
■その他・全社共通:退職給付会計における数理計算上の差異15億円を費用計上(前年同期比▲20億円)

※前期末において、市場金利低下を受けた割引率の見直し等により、数理計算上の差異が31億円発生(当期一括償却)

### セグメント別 営業利益(億円)



### セグメント別 営業利益増減(億円)



## 主な連結子会社の業績

- 林原は、新商品ファイバリクサ™は実績化したものの、機能性糖質の販売が減少し、前年並み
- ナガセケムテックスは、スマートフォンに搭載されている電子部品用エポキシ樹脂の販売が好調に推移し、利益面では全社的な原価低減活動により、増収増益

(単位:億円)

社名		売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
単体	長瀬産業	2,065	97%	▲6	—%
製造会社	林原	118	98%	24	98%
	ナガセケムテックス	127	108%	16	213%
	製造会社計(注)	460	96%	45	114%
国内販売会社	ナガセプラスチック	152	94%	3	115%
	西日本長瀬	37	91%	2	95%
	ナガセケミカル	77	98%	1	103%
	国内販売会社計(注)	401	99%	9	109%
海外販売会社	上海華長貿易有限公司	173	93%	5	96%
	Nagase (Thailand) Co., Ltd.	157	85%	3	87%
	広州長瀬貿易有限公司	126	82%	3	67%
	Nagase Korea Corporation	35	103%	2	111%
	海外販売会社計(注)	1,625	87%	33	78%

※注) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

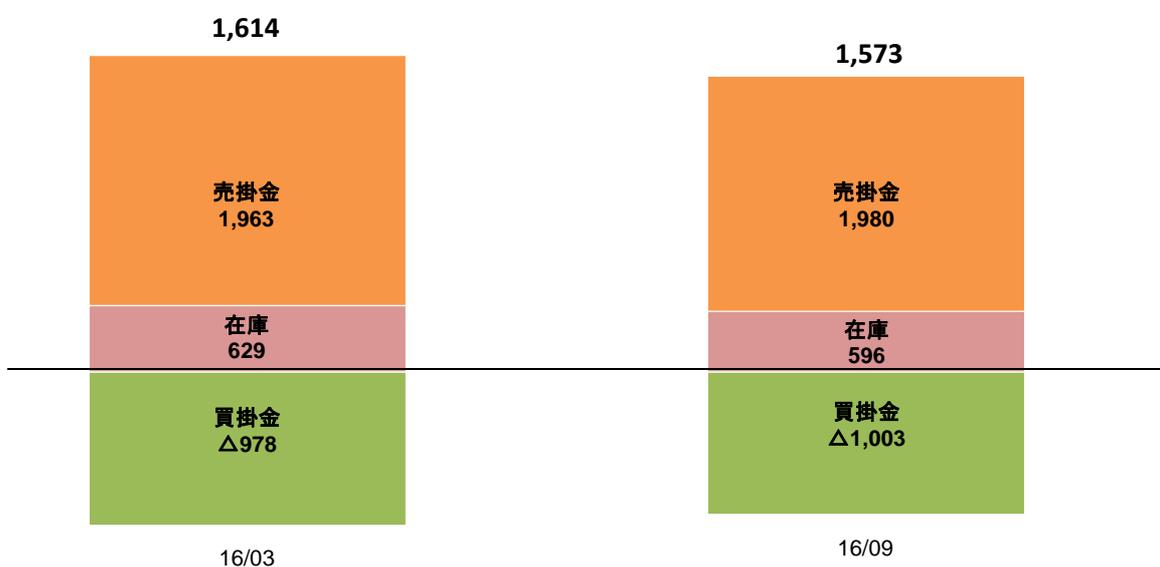
## 連結貸借対照表

- 円高による為替換算調整勘定の減少等により純資産が減少
- 自己資本比率は、0.1ポイント増加し、53.6%

資産				負債及び純資産			
	16/03	16/09	増減額		16/03	16/09	増減額
<b>流動資産</b>	<b>3,123</b>	<b>3,079</b>	<b>△44</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,561</b>	<b>1,668</b>	<b>+106</b>
現金・預金	432	382	△50	支払手形・買掛金	978	1,003	+24
受取手形・売掛金	1,963	1,980	+17	短期借入金 (1年内返済予定長期借入金含む)	341	349	+8
棚卸資産	629	596	△32	1年内償還予定の社債	—	100	+100
その他	97	119	+21	その他	241	215	△26
<b>固定資産</b>	<b>1,997</b>	<b>2,012</b>	<b>+15</b>	<b>固定負債</b>	<b>768</b>	<b>650</b>	<b>△117</b>
有形固定資産	664	689	+24	長期借入金	231	201	△29
無形固定資産	445	427	△18	社債	300	200	△100
投資・その他の資産合計	887	896	+8	退職給付に係る負債	140	141	+1
投資有価証券	813	833	+19	その他(繰延税金負債等)	96	106	+10
その他	74	63	△11	<b>負債合計</b>	<b>2,329</b>	<b>2,318</b>	<b>△11</b>
				<b>純資産</b>	<b>2,791</b>	<b>2,773</b>	<b>△17</b>
				株主資本	2,346	2,361	+15
				その他の包括利益累計額	393	367	△25
				その他有価証券評価差額金	370	395	+25
				為替換算調整勘定	44	△17	△61
				その他	△21	△10	+10
				非支配株主持分	51	44	△7
<b>資産合計</b>	<b>5,120</b>	<b>5,092</b>	<b>△28</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>5,120</b>	<b>5,092</b>	<b>△28</b>

■直近四半期の売上増加に伴い売掛金は微増したものの、管理強化による立替期間の改善および円高の影響により、運転資金は40億円減少

## 運転資金（億円）



# 連結キャッシュ・フロー

■営業活動によるキャッシュ・フローの増加があったものの、投資支出や配当金の支払いおよび換算差額による資金の減少等により、現金および現金同等物は48億円減少

## キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	16/09	主な内訳	15/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	+47	税前利益+70 減価償却費・のれん償却費+53 運転資金▲20 法人税等▲44	+94
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲52	有形固定資産の取得による支出▲61 無形固定資産の取得による支出▲6 投資有価証券の取得による支出▲11 投資有価証券の売却による収入+19	▲53
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲23	配当金の支払▲20	▲8
現金および現金同等物に係る換算差額	▲20		▲3
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	▲48		+28
現金および現金同等物の期首残高	429		405
現金および現金同等物の四半期末残高	380	日本251、グレーターチャイナ59、アセアン42、欧州14、米州4、その他8	433

## 2017年3月期 通期業績見通し

### 2017年3月期通期 業績見通し

■売上高は前年並みとなるものの、退職給付会計における数理計算上の差異31億円を費用計上することにより、営業利益以下は減益の見通し

(単位:億円)

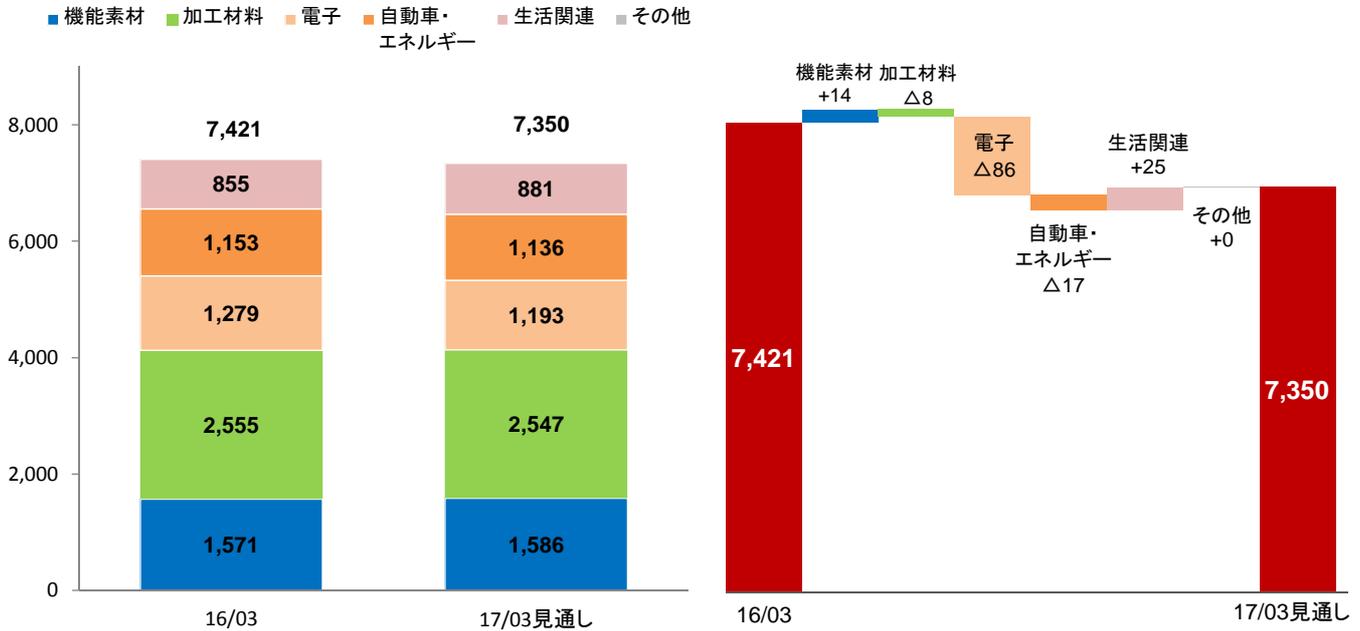
	16/03実績	17/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,421	7,350	△71	99%
売上総利益	916	923	+6	101%
<利益率>	12.4%	12.6%	+0.2%	—
販売費及び一般管理費	△736	△778	△41	106%
営業利益	180	145	△35	80%
経常利益	183	160	△23	87%
親会社株主に帰属する当期純利益	123	95	△28	77%
US\$レート (期中平均)	@120.1	@108	@12.1円高	

# セグメント別売上高見通し

- 電子セグメントは、一部タッチパネルに関連する低利益ビジネスが減少し、且つ円高の影響を受け、全体で減収
- 生活関連セグメントは、林原関連は前年並みとなるものの、スキンケア・トイレタリー業界向け原料販売や抗がん剤ビジネス等が好調に推移し、全体で増収

セグメント別 売上高(億円)

セグメント別 売上高増減(億円)

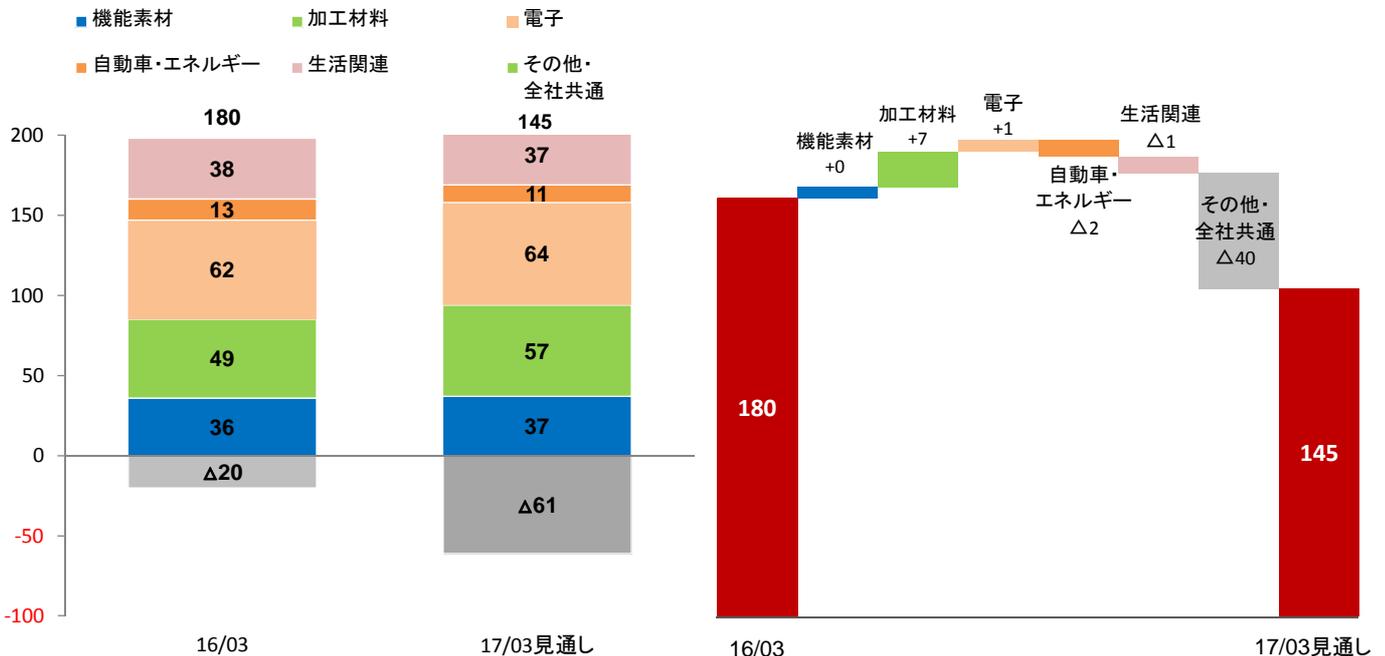


# セグメント別営業利益見通し

- 加工材料セグメントは、一部製造子会社における損益改善に伴い、増益
- 主に金利の低下を受け、割引率の見直しを行い、退職給付債務の数理計算上の差異が発生(▲31億円)したことにより退職給付費用が増加(前期は+9億円であった為、前期比▲40億円)

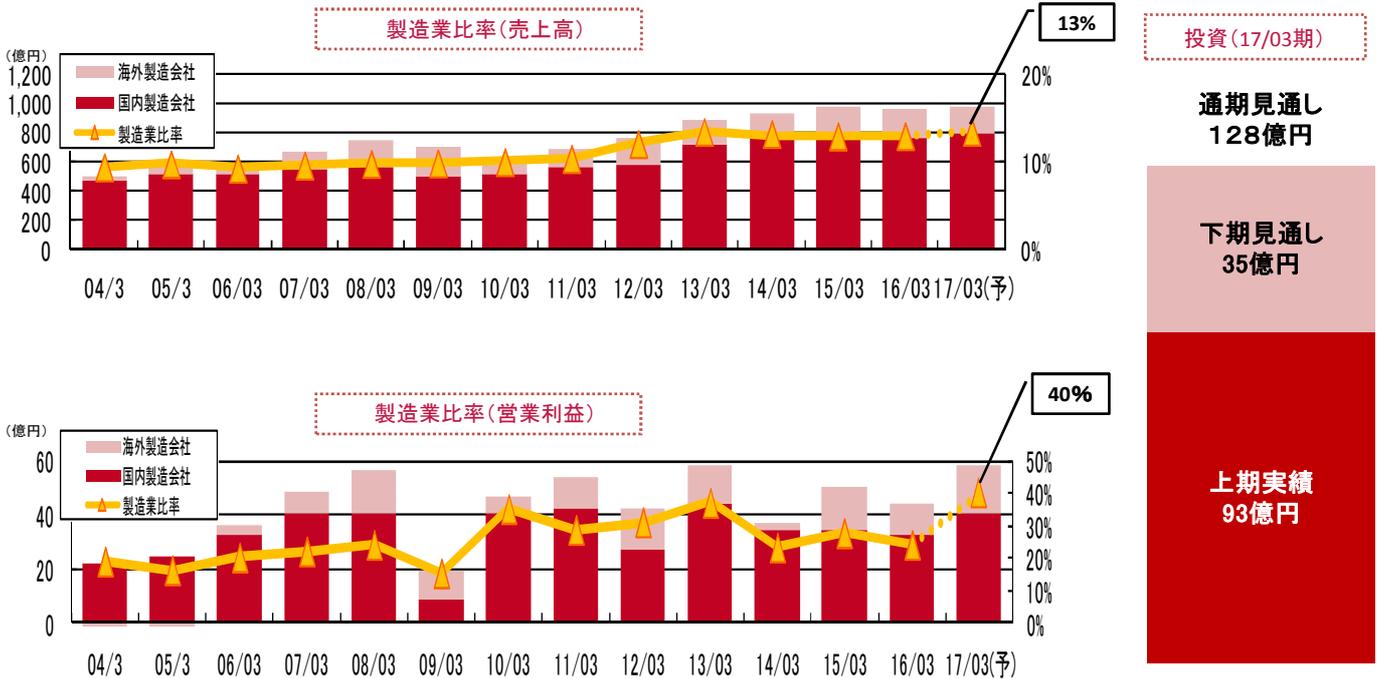
セグメント別 営業利益(億円)

セグメント別 営業利益増減(億円)



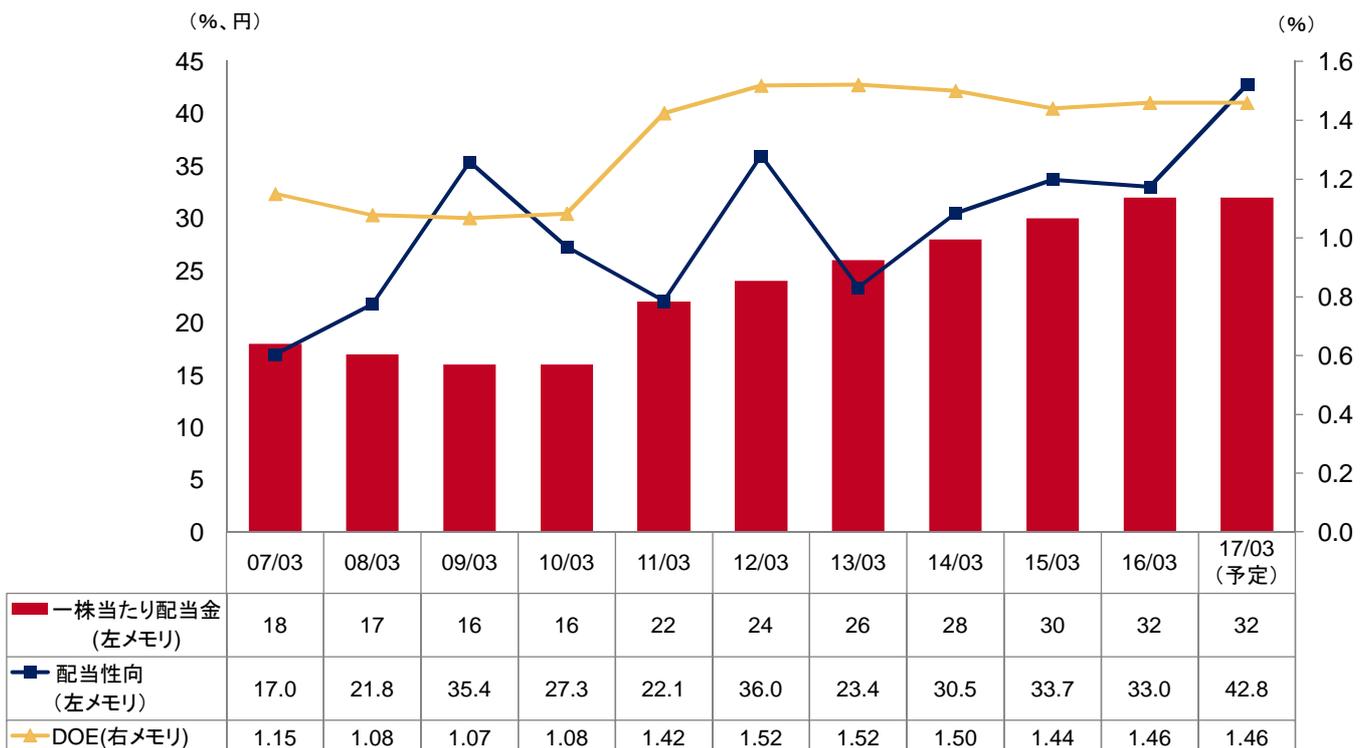
# 投資実績および製造業比率

■ 製造機能、研究開発機能、技術・情報力、グローバルネットワークを強化する投融資の実行により、独自性・優位性を創出し、事業の質の向上と企業価値の向上を図っております。



# 配当状況

■ 中間配当金16円、期末配当金16円の年間配当金32円を予定



※2016年9月に約90万株(約11億円)の自己株式取得を行いました。

## 中期経営計画「ACE-2020」の進捗

Accountability（主体性）・ Commitment（必達）・ Efficiency（効率性）

### 中期経営計画「ACE-2020」の進捗

- 資産入替による注力分野とエリアへの資源配分を実施
- マインドセットの徹底に向けた施策を実施

#### 収益構造の変革

- Inkron株式取得 : ディスプレイ、タッチパネル、ウェアラブル事業強化
- Cytech株式取得 : 北米ウレタン事業強化、自動車用ウレタン離型剤の水系移行に備える
- Nagase FineChem Singapore株式売却 : 薬液事業、シンガポールより撤退
- 凍結乾燥ライン導入 : ナガセ医薬、高活性注射剤製造機能の強化
- トレハロース増築竣工 : 林原、1万トンの製造能力強化

#### 企業風土の変革

- 「間接部門業務の高度化と効率化プロジェクト」発足 : 売上高販管費率の改善に備える
- 権限委譲の実施 : 主体性の醸成、スピード感のあるガバナンス体制の構築

# ナガセケムテックス株式会社の 取組みについて

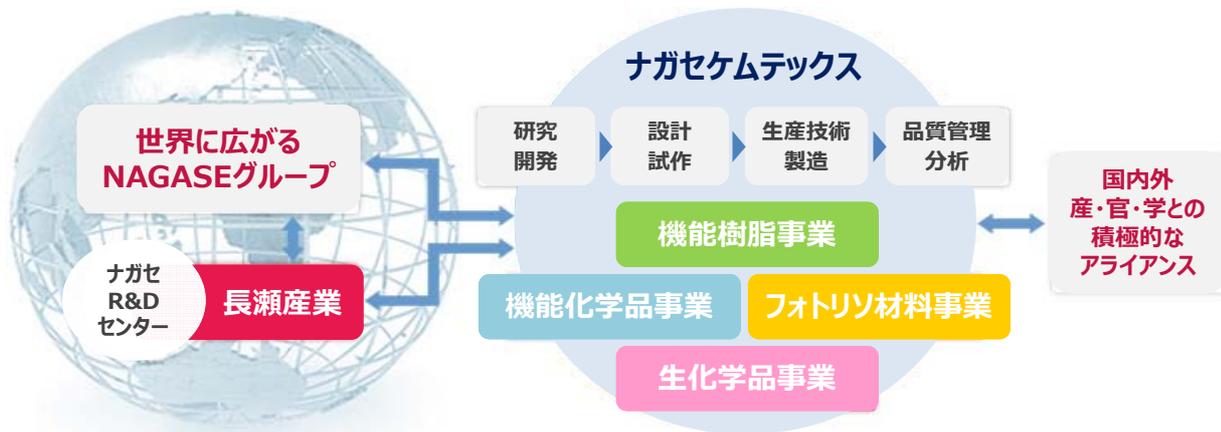
ナガセケムテックス株式会社  
代表取締役社長 磯野昭彦

## 目次

- 会社概要
- 事業紹介
- グループ会社との協業
- 新規事業分野に対する取り組み
- 中期経営計画 重点施策

「高機能な化学製品と技術の提供を通じ、  
顧客の満足度向上に役立ちながら、よりよい社会実現に貢献する」

## ～ 私達は豊かな未来のために化学する ～



## 会社概要

- 社名           ナガセケムテックス株式会社
- 社長           磯野昭彦
- 設立           1970年4月1日
- 資本金        24億7,493万円
- 従業員数     約600名
- 株主           長瀬産業株式会社（100%）
- 売上高        237億円（2016年3月期）
- 営業利益     18億円（2016年3月期）
- マネジメントシステム



ISO 9001、ISO 14001、食品 GMP、OHSAS 18001  
JISQ 9100（航空宇宙）

- 1938 帝国化学産業
- 1970 長瀬チバ
- 1977 ナガセ生化学工業
- 1980 ナガセ化成工業
- 1987 ナガセ電子化学
- 1990
- 2000 ナガセ化成工業とナガセ電子化学が合併  
長瀬チバが長瀬産業全額出資のナガセケムテックスとなる
- 2001 **4社統合によりナガセケムテックス誕生**
- 2002 長瀬産業と共に長瀬電子材料（無錫）有限公司を設立
- 2008 堺工場設立 液晶向け薬液の生産・再生事業を開始
- 2010
- 2012 長瀬産業と共に米国Engineered Materials Systems, Inc.  
全株式を取得（子会社化）
- 2015 長瀬産業と中国企業と共に合併会社：無錫澄泓微電子材料有限公司  
設立
- 2016 長瀬産業と共にINKRON社に資本参加

# 事業紹介

## エレクトロニクス



**機能樹脂事業**  
エポキシ樹脂接着剤・封止剤(シート状、液状)

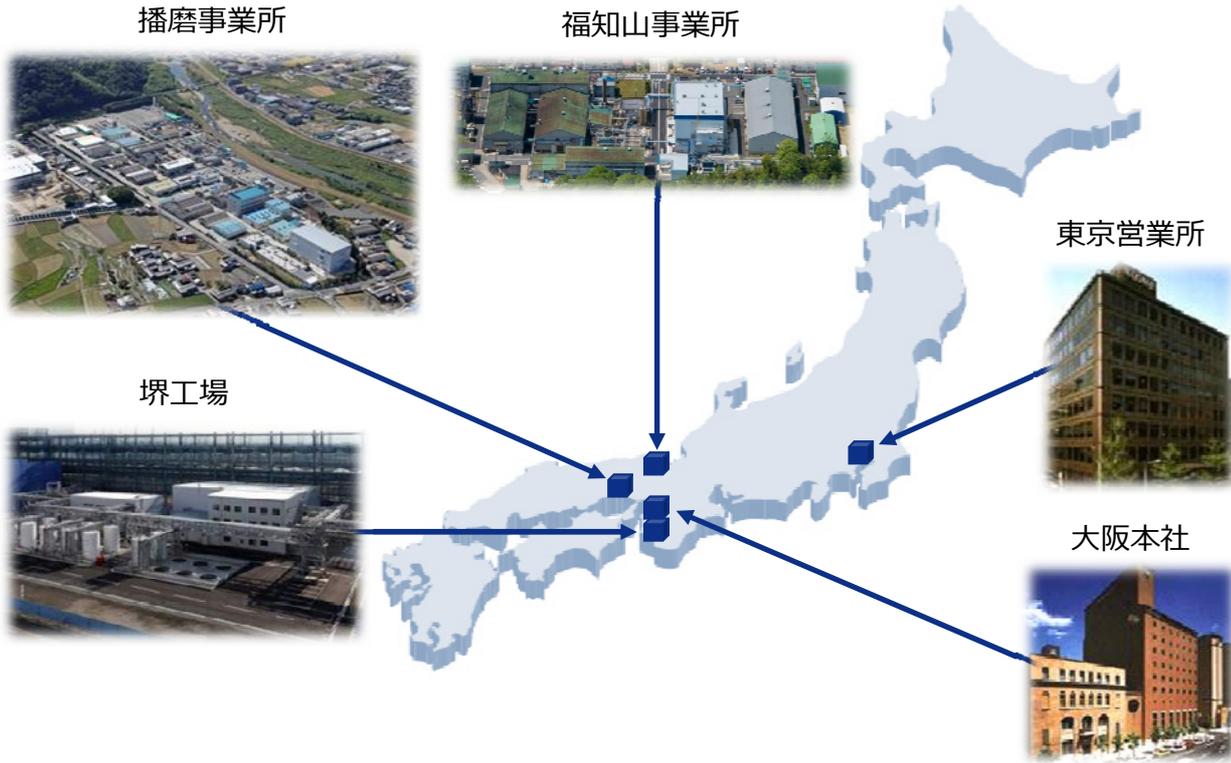
**機能化学品事業**  
透明導電性コーティング剤、  
アクリルエラストマー、特殊エポキシ樹脂

**フォトリソ材料事業**  
レジスト、現像液、  
エッチャント、剥離剤

**生化学品事業**  
食品用酵素、工業用酵素、  
生活用酵素、リン脂質



# 国内拠点



# 事業のグローバル展開



ナガセケムテックスと林原の初めての共同開発製品

独自糖化酵素

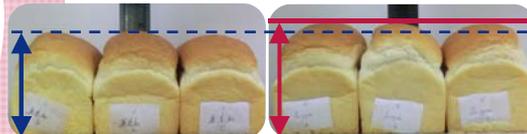


製パン用酵素  
『デナベイク®EXTRA』



2016年10月 発売

アプリケーション開発、製造



コントロール  
添加なし

デナベイク®EXTRA  
200ppm (対小麦粉)

「ポリウムアップ」  
「柔らかさ持続」



市場開発、販売、物流

新規事業分野に対する取り組み

既存市場における技術革新に追従するための持続的な製品開発だけでなく、今後伸びると考えられる新規市場へ参入するための「新技術の構築」「新製品開発」および、そのための「イノベーションパートナーの獲得」、「拠点戦略の拡充」に関する活動を推進しています。

主な参入市場

輸送機器

重電

弱電

半導体

ディスプレイ

フィルム

樹脂添加剤

ゴム・タイヤ

衛生用品

食品添加剤

製品改良・新製品開発  
既存製品の供給

機能樹脂事業部

フォトリソ材料事業部

機能化学品事業部

生化学品事業部

研究開発本部

プロジェクト

イノベーションパートナーの獲得  
新技術の構築、新製品開発  
拠点戦略の拡充

未参入市場  
今後の注力市場

アディティブ  
マニュファクチャリング関連

メディカル・  
ライフサイエンス

ウェアラブル・  
プリントドエレクトロニクス

環境・エネルギー

インクジェットプロセス材料を中心に、「アディティブ・マニュファクチャリング」で利用される高機能材料の開発に注力しています。

新規開発製品群

- インクジェット配線インク材料
- UV硬化3D造形材料



インクジェット配線インク材料

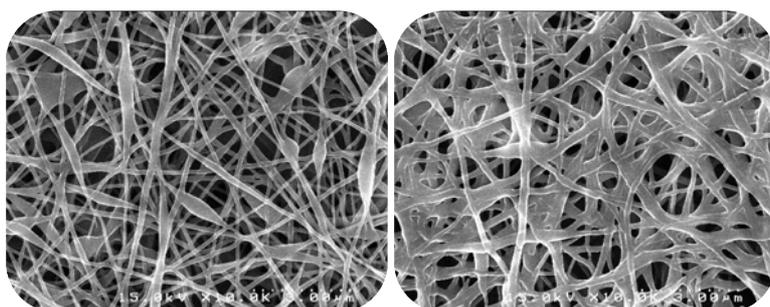


UV硬化3D造形材料開発品による造形物

基盤技術である精密有機合成技術を活用して、メディカル・ライフサイエンス分野で用いられる生体親和性素材、およびその配合物、加工品等の開発を推進しています。

新規開発製品群

- アミノ酸縮重合物
- 糖質修飾物・誘導体
- 分離・精製材料



合成アミノ酸ポリマーナノファイバー

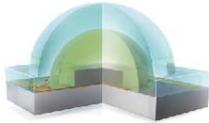


エンドトキシン除去剤と試作ミニカラム

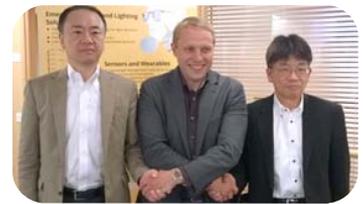
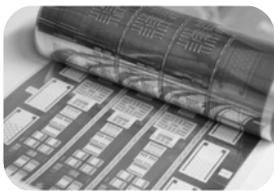
INKRON社(フィンランド)に資本参加し、技術導入・共同開発を開始しています。

シロキサン、ナノ粒子の技術・製品開発

量産処方開発、量産、品質保証



ディスプレイ・タッチセンサー・  
ウェアラブル市場の事業強化



市場開発、販売、物流

中期経営計画「ACE-2020」重点施策

「収益構造の変革」 ポートフォリオの最適化、収益基盤の拡大・強化

ポートフォリオの最適化	「新規事業創出」	イノベーションパートナーの発掘、テーマ提案制度の導入
収益基盤の拡大・強化	「効率化の推進」	体質改善、労働分配率の向上（2015年度比で7%減）

「企業風土の変革」 マインドセットの徹底、経営基盤の強化

マインドセットの徹底	「経営の可視化」	経営指標を開示し、部署レベルで実施すべきKPIを明確にする
経営基盤の強化	「安全操業の徹底」	人材教育、安全を考慮した新規設備の導入



## (参考資料)セグメント別概況

### 機能素材セグメント

#### <所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	16/03期		17/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
売上高	国内	753	1,501	714	▲38	1,524	102%
	海外	238	465	211	▲27	455	98%
	連結調整	▲200	▲395	▲185	+15	▲393	-
	合計	792	1,571	741	-50	1,586	101%
営業利益	国内	15	27	15	▲0	29	106%
	海外	5	10	4	▲1	8	84%
	連結調整	+0	▲0	▲0	▲0	▲0	-
	合計	20	36	18	▲2	37	101%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

#### 2017年3月期第2四半期 実績

##### 売上高

**741億円(94%)**

◆機能化学品事業は、アセアンおよびメキシコにおいて売上が増加したものの、ナフサ価格下落、国内市場の減少等の影響を受け、塗料・ウレタン原料販売が低調に推移し、事業全体として減収

◆スペシャリティケミカル事業は、電子業界向けフッ素ケミカルが国内および韓国向けを中心に堅調に推移したものの、樹脂添加剤等のビジネスが低調に推移し、事業全体として減収

##### 営業利益

**18億円(88%)**

◆原価低減や売上増加等により製造子会社の損益が改善したものの、売上減少の影響等により減益

#### 2017年3月期 通期見通し

◇下期は、米国におけるウレタン離型剤ビジネスやフィルター事業、また自動車生産台数復調を見込み塗料原料販売が好調に推移し、通期で増収増益

## <所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	16/03期		17/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
売上高	国内	778	1,550	755	▲22	1,609	104%
	海外	868	1,617	723	▲145	1,567	97%
	連結調整	▲313	▲613	▲276	+36	▲629	-
	合計	1,333	2,555	1,202	▲131	2,547	100%
営業利益	国内	11	24	14	+2	30	126%
	海外	14	24	12	▲2	25	107%
	連結調整	+0	+1	+0	▲0	+2	-
	合計	25	49	26	+0	57	114%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

## 2017年3月期第2四半期 実績

**売上高** 1,202億円(90%)

◆カラー&プロセッシング事業は、国内での包装材料用の合成樹脂等の売上は増加したものの、液晶テレビ反射板用材料、顔料・添加剤、情報印刷関連材料等の売上が減少し、事業全体として減収

◆ポリマーグローバルアカウント事業は、国内はナフサ価格下落等の影響を受け横ばいとなり、海外はアセアンにおいて電子業界向けに合成樹脂販売が好調に推移したものの、円高の影響を受け、事業全体として前年並み

**営業利益** 26億円(103%)

◆減収となったものの、一部製造子会社において損益改善がなされ、増益

## 2017年3月期 通期見通し

◇下期は、国内およびアセアン等における合成樹脂販売が好調に推移するものの、円高の影響を受け、通期で売上は横ばい  
ただ、製造子会社における損益改善が寄与し、通期で増益

## <所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	16/03期		17/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
売上高	国内	629	1,259	638	+9	1,256	100%
	海外	384	731	353	▲31	637	87%
	連結調整	▲360	▲711	▲366	▲6	▲700	-
	合計	653	1,279	625	▲27	1,193	93%
営業利益	国内	19	38	19	+0	38	99%
	海外	19	27	11	▲7	27	100%
	連結調整	▲2	▲3	+0	+2	▲1	-
	合計	37	62	31	▲5	64	102%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

## 2017年3月期第2四半期 実績

**売上高** 625億円(96%)

◆電子化学品事業は、電子部品・半導体業界向け等の変性エポキシ樹脂関連の売上が増加し、事業全体として増収

◆電子資材事業は、スマートフォン向け部材、タッチパネル用部材およびガラス薄型加工等の売上が減少したことから、事業全体として減収

**営業利益** 31億円(86%)

◆減収に伴い、減益

## 2017年3月期 通期見通し

◇下期は、引き続き変性エポキシ樹脂ビジネスが好調に推移するものの、一部タッチパネルに関する低利益ビジネスが減少し  
通期で売上は減少。ただ、一部製造事業が好調に推移し、  
通期で増益

## ＜所在地別売上高・営業利益＞

	16/03期		17/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
	(億円)						
売上高	国内	262	546	264	+2	564	103%
	海外	414	828	360	▲54	781	94%
	連結調整	▲108	▲221	▲100	+7	▲209	-
合計	568	1,153	524	▲44	1,136	98%	
営業利益	国内	▲4	▲9	▲5	▲0	▲8	93%
	海外	11	21	9	▲1	19	90%
	連結調整	+0	+1	+0	▲0	+0	-
合計	7	13	5	▲1	11	85%	

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

## 2017年3月期第2四半期 実績

## 売上高

524億円(92%)

◆自動車材料事業は、国内においては円高およびナフサ価格の下落による減収影響を受けたものの、樹脂ビジネスが伸長したことから、売上は微増した一方で、海外においては、全般的に販売量は好調に推移したものの、円高の影響を受け、事業全体として減収

## 営業利益

5億円(74%)

◆減収により減益

## 2017年3月期 通期見通し

◇下期は、自動車生産台数の復調を見込み、自動車関連部材販売が増加するものの、円高の影響を受け、通期で減収減益

## 生活関連セグメント

## ＜所在地別売上高・営業利益＞

	16/03期		17/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
	(億円)						
売上高	国内	490	1,022	497	+7	1,063	104%
	海外	63	127	52	▲11	121	95%
	連結調整	▲144	▲294	▲137	+7	▲303	-
合計	409	855	412	+3	881	103%	
営業利益	国内	29	66	33	+4	65	97%
	海外	1	4	0	▲1	2	58%
	連結調整	▲14	▲32	▲15	▲0	▲30	-
合計	16	38	18	+2	37	96%	

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産償却含む)

## 2017年3月期第2四半期 実績

## 売上高

412億円(101%)

◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野においてトレハ®等の国内売上は前年並み、海外売上は減少し、スキンケア・トイレタリー分野はAA2G®の国内売上は減少したものの、海外売上が増加、医薬・医療分野では、原薬・中間体、医療材料ともに売上が増加し、事業全体として売上は前年並み

◆ビューティケア製品事業は、新商品の販売が好調であったこと等から、事業全体として前年並み

## 営業利益

18億円(112%)

◆売上が増加したことに加え、一部製造子会社において損益改善がなされ、増益

## 2017年3月期 通期見通し

◇下期は、引き続きスキンケア・トイレタリー業界向け原料販売が好調に推移し、医薬・医療材料向けビジネスが上期に引き続き同水準で推移するものの、体制強化に係る費用の計上等により、通期で増収減益



<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2016年11月25日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。